

職場紹介

「新型コロナの収束に向けて」

若林区保健福祉センター家庭健康課 課長 川村 郁子

若林区保健福祉センターは、保健所と福祉事務所の機能を持ち、妊娠期から高齢期まで地域住民の生活に密接に関わる行政の窓口です。母子保健・精神保健・難病・健康づくり

・高齢者支援・感染症対策等広範囲な活動領域で保健師を始め様々な職種と連携をしながら相談やサービス提供を行っています。

今年度は、新型コロナウイルスの対応で、マスコミにも注目を浴びている保健所です。

当センターでは、医療機関からの患者発生届、感染者の疫学調査、検査対象者への連絡、濃厚接触者や自宅療養者への健康観察など、休日・夜間を問わず全所体制で対応しています。疫学調査は、感染源を推定するための後方調査と、濃厚接触者を早期に把握して行動制限による感染拡大を封じ込める前方調査を行います。発生届が届くや否や、一人一人に連絡をして、2週間の行動や接触した方々の情報を詳しく伺うため、全容が把握できるまでに数日掛かることもあります。最近では病床占有率が高まり、すべての方が、医療機関や宿泊施設に入所できずにおり、在宅療養者の健康管理にも細心の注意を払っているところです。

また、検査対象者の増加に伴い、検査までにお待ちいただくことが多くなっています。保健医療施設内で発生した際には、保健所だけでは瞬時に対応できず、検査会場までの搬送や施設内でのPCR検査の実施などご協力をいただいた施設も多くありました。この場をお借りして感謝申し上げます。

変異株の確認など収束の兆しが見えず、ワクチンの接種に向けても課題山積ですが、区民の命と健康と生活を守るために所内一丸となって、この難関を乗り越えたいと思っております。



お知らせ

毎年4月に開催しておりました宮城県看護協会仙台南支部通常総会は、新型COVID-19の感染症の拡大防止、および皆さまの健康と安全を第一に考慮し、中止とさせていただきます。

編集後記

新型コロナウイルスの感染拡大の折、医療・介護・福祉に携わられておる全ての会員の皆様に心より感謝申し上げます。今年度は予定していた活動が困難な一年となってしまいましたが、お忙しい中、原稿執筆を快く引き受けてくださった皆様、ご協力頂いた皆様のおかげにより支部だより作成することができました。本当にありがとうございました。

まだ現状が落ち着かず不安に思うこともありますが、皆様体調に気を付けてお過ごしください。

広報委員一同



第 73 号
発行所
(公社)宮城県看護協会
仙台南支部
事務局
仙台市青葉区五橋1-1-5
JR仙台病院
TEL022(380)2373
印刷所
KAMADA PRINT

ご挨拶

JR仙台病院

岩 淵 富 美 子

今年度から仙台南支部の支部長をさせて頂く事になりましたJR仙台病院の岩淵です。どうぞよろしくお願い致します。役員・会員の皆様と協力して、支部活動を進めていきたいと考えております。仙台南支部は、これまでも多くの会員の皆様に支えられ、事業展開・支部活動を行って参りました。今年度も様々なイベント開催や、活動を計画しておりましたが、COVID-19の影響で、行事の中止・活動の自粛となってしまいました。今後は感染状況を確認しながらにはなりますが、どうすれば支部機能を強化し、地域住民のニーズに応えられるか、会員の皆様と知恵を出し合って活動していきたいと考えています。また今年度は、ナイチンゲール生誕200年という節目の年にあたります。ご存じの通りナイチンゲールは、クリミア戦争において感染症が蔓延する現地に赴き、劣悪な衛生環境を改善し、感染の防止に努めたとされています。記念すべき生誕200年の年に、COVID-19の流行と感染拡大です。ナイチンゲールが提唱する感染症の看護の基本は、「予防・換気・患者への関心」です。現在の感染対策と変わりはありません。感染管理の礎を築いたナイチンゲールが、感染管理の重要性と看護の原点を再認識させているでしょうか?今もお長期に渡り、現場の第一線で活躍されている看護職・看護管理者の皆様に感謝と敬意を表したいと思います。感染対策強化・地域連携・包括ケアの推進など、取り組むべき課題が山積しておりますが、会員の皆様と協力して、保健・医療・福祉をつなぎ、地域で暮らす人々を支える仕組み作りなどに取り組んで参りたいと思います。今後も会員の皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い致します。

現場の声

コロナ禍の面会 どうしてしていますか？

東北医科薬科大学若林病院 矢野 江美

当院では感染予防の為面会禁止をお願いしております。しかし、家族と会えない不安や心配から面会希望は多く、現在は来院した家族の体調確認を行い、マスク着用して2m離れてもらったり、アクリル板を使用して感染対策をとりながら短時間でも顔を合わせられるようにしています。また、患者様の入院中のご様子が見えるように、ご家族が日用品等を持参された時などに細やかなコミュニケーションがとれるように努めています。十分な面会はできませんが、こうした取り組みが患者さんや家族の安心感に繋がっていると感じます。今後も家族の絆が保たれるよう、私たちが今できる工夫を行っていきたいと思います。



仙台富沢病院 佐藤 玲子

当院は、認知症治療を主目的とした高齢者が多く入院する病院です。新型コロナウイルス感染症予防対策のための面会禁止が、2月中旬からと長期化する中「自分(家族)の事を忘れてしまうのではないか」という不安から、患者・家族共に面会を希望する声が聞かれるようになりました。そこで、院外に面した窓越しの面会を試みました。実施時は他の家族と交差しないよう、日程や場所の調整をしています。認知症という特性からiPadを利用したりリモート面会は困難ですが、窓越し面会はお互いの様子を見て、家族の携帯電話を借りての会話も可能で、患者さんの笑顔も多く見られ、ご家族からも好評を得ています。



仙台赤十字病院 太田 やよい

安心してご両親の元へ退院できることを目指し、愛着形成促進を目的として面会時間の拡大や祖父母面会を開始した中、緊急事態宣言が発令され院内の面会が全面禁止となりました。そこで、ご両親の不安軽減を第一に考え、定期的な電話訪問とオンライン面会を実施しました。事前に院内で定めた同意書を交わし、オンライン面会では個人情報保護の観点から撮影時の環境に配慮しました。面会時に、画面に向かって患児の兄が手を振る場面やご両親の笑顔に触れ、実際の姿を見ていただくことは、安心感につながったと感じています。現在は制約つきでの面会を実施していますが、万が一の緊急事態再来時にも「我が子に会いたい」というご両親の気持ちに沿えるように面会方法を工夫していきたいと考えています。



仙台整形外科病院 熊谷 政子

私たち仙台整形外科病院では、COVID-19感染症対策として、面会の制限を行っています。制限方法も遍歴を重ね、現在では基本的には患者さんとの面会を全てお断りしています。ただし、病院で必要と判断したとき(入退院の付き添い、手術当日、医師からの説明)のみ許可しております。

洗濯物などの日用品の受け渡しは、家族が直接患者さんと会わないようにスタッフを介して行っています。受け渡しの時間は、毎日15時から17時の2時間とさせて頂き、週1~2回の頻度でお願いしております。

患者さんも家族も、大きなトラブルなくご協力頂いております。

